

## 耐性のあるコミュニティづくりの為のリーダーシップ（Leadership for Resilient Communities）について

ポートランドにおいて

- ・自然災害、人口減少の中でどうコミュニティを作っていくか。
- ・将来を作っていく経験の価値のあるもの。
- ・人口の減少という問題
- ・資源をいつまでも得る事はできない。
- ・限られた資源を使う事には限界がある。

という中で、耐性のあるコミュニティをどう作り、社会のネガティブさをどう共有していくかが重要になってきている。

この事を土台に、様々な立場で活動されている5名の方々によるディスカッションが行われた。

### ○自己紹介

#### ①ロバート（元議員）

私は、人生の約1／3を地域レベルでの開発と保全を両立させた都市計画の作成について携わってきた（3、4の都市計画）。

今は、NGO好きの弁護士として、広域政府レベル、民間レベルで働く弁護士として監視をしており、大学でも働いている。

#### ②スーザン・アンダーソン（市職員）

都市計画、建造によるサステイナブル（持続可能性）に取り組んでいる。

新しい部局では、都市計画とサステイナビリティ（省エネ、リサイクル、廃棄物処理）を、課題に対して取り組む為に組み合わせている。

アメリカはヨーロッパと違い、資源は外から取ってくれば良いという成長スタンスがあるが、資源が限られた中でどのように維持し、成長していくかを考えなければならないと思っている。適応性が高く耐性の高いまちづくりという、新しい考えが必要であると考えている。

大学にいる時、経済、環境、ビジネスを学んだが、20～30年前はこれが組み合わせられるということは、考えられなかった。

今は、気候変動、人口の老齢化の対策、メカニズムの分析、市場の活用、政治がどうなっているか、どういったリーダーシップが必要か考えていかなければならない。

レジリエンスが強ければ良い、いい課題克服ができれば良いというのではなく、多くの選択肢を持ち、チャンスを活用し、どうなるかを予測しながらやる事が大事と考えている。

③ブライアン（オフィスオブネイバーフッドインボルブメントマネージャー）

私の仕事は、社会的持続性、市民参加、政治ポリシーへの支援である。

テーマは、市からコミュニティへ資金を与え、いかに、自分達のコミュニティを良くしていくかについてである。白人やミドルクラスへの融資と、マイノリティへの資金、資源の投資も行っている。

多様性のある、多くの人に関わった方が効果が出るので、コラボレーションをいかにするか、歴史的マイノリティへの政治的対応をどうするかを考えている。

居心地の良い環境を作らなければならないとも考えており、翻訳した資料等を作ったりもしている。いかに、限られた資源の中で、ガバナンスを市民と対等になってやり、パートナーシップを作るかが重要と考えている。

④ボブヘレット

サウスイーストネイバーフッドアソシエーションという7つの連合の内の1つにおいて、住民と活動する仕事をしている。

これから20年都市の成長のペースはますます速くなると考えている。

行政側からどういった対応をするか、どの様な事が今後起こるのかを分かった上での対応が必要であり、特に資源が少なくなっているのでこの事を考えなければいけない。

組織の為の人集めが必要であり、人材育成、人へのリソースの提供方法を考えなければならないと考えている。

⑤チップス（アーバングリーン代表）

経済、社会的に地域をどう活性化できるか、ローカルが重要と考えている。

フォーカスをチェンジし、多くのステークホルダーを集めパートナーシップを作る事が大事である。アーバングリーンの人はバックアップが違う。我々が共通のゴールに向かってどう行くかが重要と考えている。

その後、ディスカッションが行われ以下の意見が述べられた。

○人口について

- ・人口は、将来安定していくと考えられる。
- ・ポートランドにおいて、人口増加が今後10万人見込まれている。どうやって解決するか。どういったニーズを把握するかが重要となっている。  
また、若者、高齢者の増加による、人口の多様化をどうするかも課題になっている。  
人口の高齢化もすすんでおり、高齢者が移動できるようなデザインを設計しなければならない。例えばヘルスケアにおいては、近所の人達の生きがいとなるような事などを考えている。
- ・高齢者の活動の為の資金等により、高齢者の経験を生かし行政に知識を与えるグループを作り、市議会に意見を出してもらおう等、当事者意識を持ってもらえるようにする事が大事である。

- ・自分の地元の為にという視点やプライドがポートランド人にはある。プライドを持って、コミュニティの人達のためにやろうとする意識がある。
- ・シニカルにならない様にプライドを持つ事が大事。どうせ市に言っても・・・となってしまくとダメ。そうならないようにするのもチャレンジである。
- ・1970年代、ポートランドは川も街も汚れていた。40年間、草の根リーダーシップにより環境が変わってきた。市民参加に付随するエコロジーやサステナビリティ（持続可能性）があるものでないとダメ。
- ・今、日本が直面している問題は、世界にとっても重要なことである。人口、経済は上がっていくものという考えは、21世紀においては危険となりうる。
- ・量から質へいかにシフトしていくかが重要と考える。
- ・日本とポートランドの共通点として、高齢者と若者はシニカル（冷笑的）な見方をする人が増えているという所がある。
- ・若い人がプロジェクトを作り、行動できる空間やスペースを作らないといけない。
- ・ポートランド市民のプライドの中には、サステナビリティに対する理解、コミュニティの一員として共通の認識を持つという事が含まれていると考える。

#### ○市民参加について

- ・市民参加の視点は大事である。
- ・市職員においては、この30年間で革命が起こっていると思っている。それは、頭でなく、心やパッションで仕事をしたり、この場所が好きで、という土台のもと仕事をするようになってきている。また、長期的に物事を考える視点を職員は持っているはずである。愛着心と自分の気持ちを信じる心が育っている。与えられたシステムの中でできることは、信じる事であり、いかに人を信じて、自分を信じられるかが重要になる。
- ・市民参加のアプローチは広げていかないといけなくなっている。今までは、ネイバーフットアソシエーションが全てと思われていたが、そうでもない事が分かって来たためである。
- ・参画する人へのアプローチ、例えばボランティアへの参加、夜回り等参画の場を提供しなければならない。
- ・ポートランドの東地区は低所得者が多く住んでおり、マイノリティも多い。東ポートランドアクションプランでは、250の提案が出され、それをどうやって実行していくかという取り組みをしている。
- ・一人ずつに接して、人を集めることも重要。食事をしたりして、楽しくコミュニケーションを図るべき。一旦コミュニケーションの仲間ができれば素晴らしいと思う。
- ・次の世代にそれをどうつなげていくかも重要である。
- ・問題があった時に、それを変えたいという人がいる場合、どうするかという事を考える。
- ・計画ではなく、人々の了解を取る事が必要。

- ・物事を為す事において、権限にたいするリスペクトが同じになる事により、見方が同じになる。市長が出向いてみるという考えも共有したい。

○リーダーシップについて、持続性について

- ・リーダーシップを取れる人が増えている。
- ・持続性というのは、リーダーシップの引き継ぎでもある。
- ・昔は、白人が多かったが、今の学校の生徒を見ると白人以外の人が増えている。
- ・将来を見据え、マイノリティ等従来リーダーシップをとってなかった人に、政治に係る事項やコミュニケーションの法則等、リーダーになるトレーニングを積んでもらったりしている。移民の人をトレーニングする組織がある。

○まとめ

- ・コミュニティの耐久性とは  
現状を維持できる  
直す事ができる  
学ぶ事ができる  
再構築することができる 事ではないだろうか。
- ・どうやって自分達の考えている事をやっていくかを考えていかなければならない。
- ・まずは、様々な人と会話をして、想いを伝えて行く事が重要である。